

第21期第13回常任理事会議事録

日時 昭和56年9月12日(土) 9.45~12.30

場所 東京管区気象台第二会議室

出席者 岸保, 小平, 浅井, 荒井, 内田, 河村, 竹内,
二宮, 松本, 増田, 村山

報告

〔会計〕 荒井理事から次のとおり報告があった。

1. 机と椅子(8脚)を事務局の備付けとして購入したので, 小会議用に利用されたい。
2. 大気科学講座の購入申込の手数料として, 東大出版会より52,900円の入金があった。
3. かねて申請中の文部省助成金に対し, 25,600,000円の交付決定額の通知がきた(前年度は2,400,000円)。

〔気象集誌〕 記念論文集は目下のところ16編集まっている。invited paperは, 50人位のうち結局40編位になるもようである。

〔講演企画〕 21日に秋季大会のプログラムを編成する。1982年春季大会のシンポジウムのテーマは, 気象大学校の岡林俊雄氏に依頼してあるが, (1)気象衛星ひまわり1~2号, (2)台風問題, (3)FGGEデータの解析, (4)極地循環の中からもとりあげられることになる。

〔奨励金各賞〕 奨励金受領候補者は, 自薦他薦を含め4件申請が出ているが, 9月25日に選考委員会を開催し理事長あて報告書を提出したい。秩父宮記念学術費については, 申請期限の関係で「天気」に告示できないので候補者を検討したい。

〔教育と普及〕 第15回夏季大学教室の取りまとめが報告された。

参加者75名, 内容は, 気候変動と熱収支というテーマで, 日射観測と衛星写真との2回の実習は好評であった。アンケートは5.5通回収したが, 開催時期は7月下旬後半~8月上旬前半が最も多く, 次いで8月上旬後半~8月中旬前半である。

「科学朝日」に分かりやすい気象学を連載することになったが, 1年間では少ないということと1年半か2年連載することになった。

議題

1. 昭和57年度予算(案)について

荒井理事から, 予算編成概要について次のとおり説明があった。

収入の部

- (1) 会員数は, 昭和56年8月1日現在とした。
- (2) 記念事業積立金10,500,000円は, 特別会計として計上すべきであるが, 経費の大半が「気象集誌」「天気」の特別記念号に支出されるので, 一般経費としてそれぞれの項目に組み入れた。

支出の部

管理費

- (1) 人件費はベースアップ分として5%を組み入れた。
- (2) 新しい科目として「光熱水料費」「諸謝金」を設けた。「光熱水料費」は, 建物の賃借料支出に伴う附帯経費であり, 「諸謝金」は100年記念事業の一環として, 記念講演講師の謝金と, これまで「雑費」として処理していた税理士の謝金もここに集約した。
- (3) 旅費交通費は, 昭和56年度同様秋季大会出席旅費と監査旅費100,000円を組み入れた。
- (4) 支部交付金は, 基本額70,000円を100,000円に, 会員1人当り500円を700円として組み入れた(増加額は基本額180,000円, 会員数分395,800円で合計575,800円)。
- (5) 通信運搬費に, 選挙関係分として300,000円を組み入れた。

事業費

(1) 印刷製本費

この科目全体について, 印刷費の値上り分として2%, 766,000円を組み入れた。

- (イ) 「天気」については「ひまわり」分700,000円を昭和56年度同様に組み入れた。
- (ロ) 会員名簿作成年度に当るので, その経費を1980年版と同額830,000円を組み入れた。
- (ハ) 夏季大学テキストの印刷費の中に, 昭和56年度同様関西支部の夏季講習協力費50,000円を組み入れた。

記念事業

計画額を各項目に振り分け, 予備費550,000円をそのまま全体の予備とした。

(868頁に続く)

気の輸送量の大きな belt である。

5. おわりに

一口に Carrot-shaped cloud あるいは tapering cloud といってもスケールはスモールからメソまでであるようである。ここで述べたものはメソ・スケールのものであるが、衛星写真ではもっとスケールの小さいものもしばしば目にするので、スケール別の詳細な調査が要請されよう。

文 献

Anderson, R.K., *et al.*, 1974: Application of meteorological satellite data in analysis and forecasting, ESSA Tech. Rep. NES-51.
Browning, K.A. and C.W. Pardoe, 1973: Structure of low-level jet streams ahead of mid-

latitude cold fronts, Quart. J.R. Met. Soc., 99, 619-638.

長久昌弘, 1979: 前線に伴う大雨 (アメダスの検討), 昭和53年度全国予報技術検討会資料, 気象庁予報部, 99-102.

猪川元興, 加藤一靖, 中島 忍, 1980: 1978年4月6日, 「ひまわり」の画像にみられた「にんじん」状雲パターン, 天気, 27, 219-224.

Newton, C.W., 1962: Dynamics of Severe Convective Storms, National Severe Storms Project Report Number 9, U.S. Weather Bureau, Washington, D.C., 44.

里見 穂, 1981: 「ひまわり」画像, レーダー及びアメダス雨量の重ね合せ, 天気, 28, 381-384.

柴田 宣, 1980: 雲画像による乱気流の予測とタイプリングクラウドの監視, 天気, 27, 593-596.

竹村行雄, 1979: アメダス観測値に基づく地上風場の計算, 昭和53年度全国予報技術検討会資料, 気象庁予報部, 108-111.

(864頁より続く)

これに対し

a) 「気象集誌」の特別号 (Vol. 60-1号) は, 昭和56年度に発刊されるので特別会計でないかと不都合ではないか。

b) 「天気」「気象集誌」共に記念号の増刷を何冊とするか。

c) 記念号に特別のカバーをする。等の意見が出され, 来年度の予算案については次の常任理事会で更に検討し, 記念事業については準備委員会を開いて具体案を細かく検討することになった。

2. 秋季大会懇親会の整理券について

当番である中部支部から, 懇親会の際に整理券によって人数を確認したいとの申し出があったので, 領収書 (ネームプレート兼ねている) の下に整理券として印刷し, 切りとって呈示してもらおうようにすることが了承された。

3. 第19回理工学における 同位元素研究発表会の共同主催について, 共同主催とすることを了承した。なお, 運営委員に 気象研究所応用気象研究部 矢野直会員を推薦することにした。

4. 100周年記念事業について

(1) Regional Technical Conference on Tropical Meteorology の運営について

ア) 気象庁へ正式文書で依頼する。

イ) 新田 尚会員が WMO へ出張されるので Dr. R. Czelnai への文書を依頼する。

ウ) 準備委員会を発足させることを申し合わせた。

(2) Ocean Impact Study Conference

参加人員のリストがきた。なお, 記念式典の招待状については次回常任理事会で検討する。

5. その他

(1) 各委員の交代について

講演企画 磯野良徳→松田能臣
(東京管区气象台)

奨励金・各賞 宇田川和夫→市川信夫
(")

矢花和→岡林俊雄
(気象大学校)

気象集誌 岩嶋樹也→吉住禎夫
(")

(2) 水資源シンポジウムの運営委員

古川武彦 (気象研究所) を追加推薦

(3) 文部省の科学研究費審査員の交代について

浅井富雄→菊地勝弘 (九州大学)

以上3件とも了承

承認事項 長崎勝己ほか47名の新入会員を承認